

003 ヤマト政権と古墳文化①②

01 3世紀後半、いまの奈良県の三輪山を中心とするヤマト政権が成立し、その首長は〔^{おおきみ}大王〕とよばれた。

02 中国東北部に興った〔^{こうくわ}高句麗〕は、騎馬文化を持ち、313年に〔^{らくろうきん}楽浪郡〕を滅ぼした。

03 3世紀、朝鮮半島南部の馬韓地方を〔^{ばかん}百濟〕が、辰韓地方を〔^{しんかん}新羅〕が統一し、国家を形成した。

04 朝鮮半島南部の弁韓地域は〔^{べんかん}伽耶諸国〕と呼ばれ、小国に分立する状態が続き、ヤマト政権の影響も及んでいたとされる。

05 ヤマト政権が海を越えて軍を朝鮮半島に送り、高句麗の〔^{こうたいおう}好太王〕と交戦したことが、碑文の存在によって知られる。碑文の高さは〔^{6.34} 延〕である。

06 403年～478になると、中国南朝の〔^{そう}宋〕などの正史に再び倭の状況が記録されはじめる。

07 このなかで有名なのは〔^{わのぎみ}倭の五王〕で、〔^{みこと}神〕〔^{みこと}神〕〔^{みこと}神〕〔^{みこと}神〕〔^{みこと}神〕と中国風に漢字1字で名乗った大王たちであった。

08 このうち倭王の武は、〔^{ゆうりやくてんのう}雄略天皇〕にあたると、ほぼ断定されている。

09 倭王武の実名の獲多加支鹵大王の文字は、熊本県〔^{えだふなやまこふん}江田船山古墳〕の鉄刀や、埼玉古墳群の〔^{いなりやまこふん}稲荷山古墳〕の鉄剣銘に見える。このことは、5世紀には関東から九州まで大王の支配が及んでいたことを証明している。

10 ヤマト政権は大王をいただく中央の有力氏族の連合体と考えられている。その組織は〔^{しせい}氏姓制度〕と呼ばれ、氏はおのおの大王から〔^{かみ}姓〕という称号を与えられて秩序づけられていた。

01 臣の姓を与えられた氏族から〔^{おおおみ}大臣〕が、連の姓を与えられた氏族から〔^{おおむらじ}大連〕が選ばれて、大王の支配を補佐した。

02 ヤマト政権を支えた〔^{ともみやつこ}伴造〕は、〔^{ともべ}伴部〕とよばれる部民を率いて大王に奉仕した。

03 大王は地方豪族の抵抗を排して領域を広げ、直轄領の〔^{みやけ}屯倉〕や、直轄民である〔^{なしろ}名代の部〕・〔^{こしろ}子代の部〕を設定していった。

04 大王の支配下にはいった地方豪族は、〔^{くにのみやつこ}国造〕などに仕じられた。

05 ヤマト政権の有力豪族は、私有家の〔^{おきべ}部曲〕や、私有地である〔^{たどころ}田荘〕を領有していた。

●古墳文化

06 古墳時代前期・中期の古墳の基本的な形態は〔^{ぜんぽうこうせんふん}前方後円墳〕で、その分布はヤマト政権の支配領域の拡大を示している。

07 大阪の河内平野にある古墳時代中期の〔^{だいせんこふん}大山古墳〕は世界1位、〔^{ほんだやまこふん}誉田山古墳〕は世界2位で、UNESCO世界遺産に登録されている。

08 古墳の周囲や墳丘上には〔^{ほにわ}埴輪〕が並べられた。古墳時代初期は〔^{えんとうほにわ}円筒埴輪〕形象埴輪〕である。

09 古墳時代前期の石室は〔^{けつ}竪穴式石室〕であるが、中期・後期になると玄室と羨道を備えて〔^{ついそう}追葬〕が可能な〔^{けつ}横穴式石室〕が普及した。

10 古墳の副葬品は、古墳時代前期卑弥呼の銅鏡の説も強い〔^{さんかくぶちしんじゆうきやう}三角縁神獣鏡〕やまが玉など祭器で、古墳時代中期には武器や鞍などの〔^{ばく}馬具〕などが中心となった。

11 中期古墳の副葬品である馬具は、古墳時代に朝鮮東北部の国家の〔^{こうくわ}高句麗〕の騎馬軍団との交戦から乗馬の風習が伝わったと推定されている。